

鎌倉と西洋の音楽・文化・アートが交差するトーク&コンサート

ドビュッシー没後
100年メモリアル

【第一章】
大正ニッポン
フランス大狂想曲

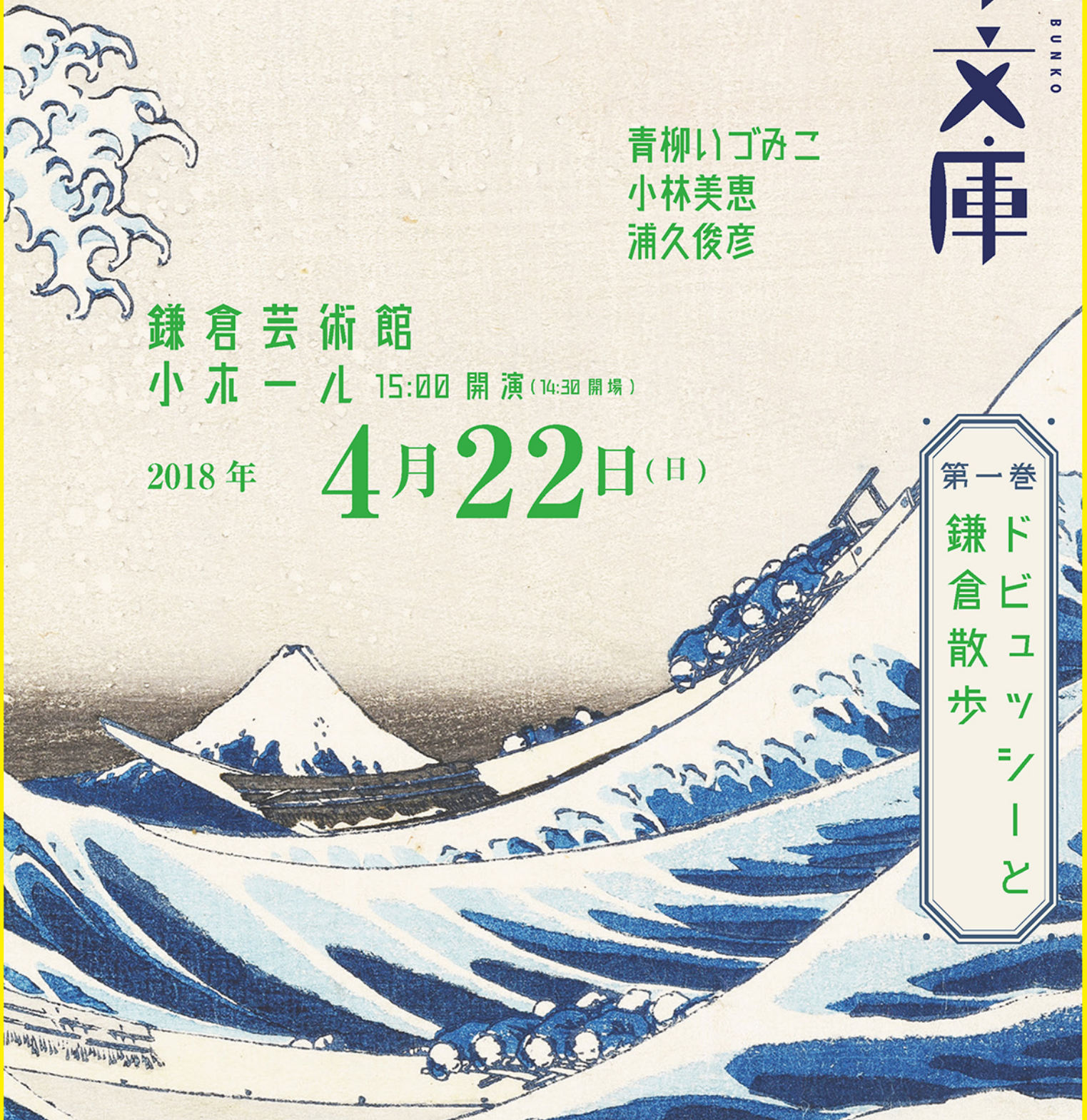
青柳いづみこ
小林美恵
浦久俊彦

鎌倉芸術館
小ホール 15:00 開演 (14:30 開場)

2018 年 4月22日(日)

鎌倉音楽文庫
KAMAKURA ONGAKU BUNKO

第一巻
鎌倉ドビュッシーと
散歩





鎌倉音楽文庫とは

あまたの文化人たちに愛され、数々の作品の舞台ともなった鎌倉。第二次世界大戦時には、この地に暮らす文士たちが、荒廃した人の心を明るくしようと蔵書を持ち寄り「鎌倉文庫」を開き、広く文化を紹介しました。鎌倉芸術館の新企画「鎌倉音楽文庫」では、鎌倉に息づく文化、ゆかりの文豪たちが耳にした音楽、作品に登場する諸芸術を通して、人・歴史・文化・芸術など多角的に光を当て、とらえとらえられ、音楽の新たな魅力をお届けします。ご案内は、鎌倉を愛する文化芸術プロデューサー・浦久俊彦。各回のテーマに即した気鋭の演奏家たちを招き、わかりやすい解説と軽妙なトーク、そして極上の演奏と鑑賞、新感覚のトーク&コンサートです。鎌倉の、いとは日本の歴史を彩ってきた文化と、西洋の音楽・文化・アートがパラレルに交差する——第一巻は、2018年に没後100年を迎えるドビュッシーをクローズアップします。

第一巻

ドビュッシー 没100年メモリアル

『ドビュッシーと鎌倉散歩』

2018年、没後100年を迎えるドビュッシーは、近代フランスの風を日本に吹かせました。彼は、北斎などヨーロッパで大流行したジャポニスムに強く影響されたことともよく知られています。明治時代の日本にとっても、ドビュッシーとの出会いは、まさに時代の先端モードといえるほど印象的なものとした。そのなかには、鎌倉に縁のある文豪たちの姿とともに、明治・大正時代の日本の風景が見えてきます。

【2018年 = 没後100年】

フランスの作曲家。1864年パリ音楽院卒業後、ローマを2年間留学生活を送るも、孤独との闘いの末、帰国。その後、パリ万博と東洋の諸芸術に出会ったほか、マラルメなど象徴主義の詩人や作家、その周辺の画家たちとの交流を通じて独自の音楽語法を模索。オペラ《ペレアスとメリザンド》(1902年初演)以降、作曲家としての地位を確立した。それまでの伝統的な理論や概念に捉われず、響きそのものと時間の移ろいゆ色彩を柔軟に表現。音楽上の「印象主義」とも呼ばれる。



Claude Debussy (1862-1918)

クロード・ドビュッシー

【第一章】 大正ニッポン・フランス大狂騒曲！ ～文豪はドビュッシーをどう聴いたか？

4月22日

- 日本人の心に近い音楽「ドビュッシー」と日本の出会い
- 大正デモクラシーとフランス・ブーム
- 鎌倉文化人たちとドビュッシー
- 鎌倉に薫るフランス／旧華頂宮邸庭園
- 憧れのフランス、おしゃれなパリノは、いつ日本人のココロに芽生えたのか？

<日本から見たフランス>

ときは、大正時代のニッポン。フランス大ブームに沸き立つ街に、ドビュッシーはどのように響いたのでしょうか？ 出演は、文筆家・ピアニストとして、ドビュッシー研究の第一人者としても知られる「青柳いづみこ」と、フランスが誇るロン・ティボー国際音楽コンクールに日本人として初めてグランプリを獲得したヴァイオリニスト「小林美恵」。西洋文化をおもしろく、分かりやすく語ることで定評の文化芸術プロデューサー「浦久俊彦」をナビゲーターに、鎌倉とフランスにちなんだ愉快的なトークも登場します。クラシック音楽に馴染みのない方でもゆったりお楽しみ頂けます。

プログラム

ドビュッシー：《二つのアラベスク》

《夢》

《前奏曲集 第1集》より

《亜麻色の髪の乙女》、《ミストレル》

《ヴァイオリン・ソナタ》 ほか



©Hideo Goto

青柳いづみこ (ピアノ)

AOYANAGI IZUMIKO

ピアニスト・文筆家。安川加壽子、ビエール・バルビゼの各氏に師事。マルセイユ音楽院首席卒業。東京藝術大学大学院博士課程修了。平成2年度文化庁芸術家賞受賞。演奏と文筆の双方で高い評価を受け、安川加壽子の評伝「翼のはえた指」で吉田秀和賞、祖父の評伝「青柳瑞穂の生涯」で日本エッセイストクラブ賞、「6本指のゴルトベルグ」で講談社エッセイ賞、CD「ロマンティック・ドビュッシー」でミュージックペンクラブ音楽賞受賞。近著は「ジャポニスム・コンクール」、『ピアニストたちの祝祭』、CDに「春の祭典とベトル・ジュカ」。日本ショパン協会理事、大阪音楽大学大学院教授、神戸大学大学院講師。



©Akira Muto

小林美恵 (ヴァイオリン)

KOBAYASHI MIE

東京藝術大学附属音楽高等学校を経て、同大学を首席で卒業。在学中に安宅賞、福島賞を受賞。1983年第52回日本音楽コンクール第2位。1984年海外派遣コンクール河合賞受賞。1988年ジュリア国際ヴァイオリン・コンクール第2位、あわせてソナタ賞を受賞。1990年ロン・ティボー国際コンクールヴァイオリン部門で日本人として初めて優勝。以来、国内外で日本を代表するヴァイオリニストとして活躍。CDは、「プレイズ・クワイスター」、「ヴァイオリン名曲集」など多数。2010年、紀尾井ホールにてデビュー20周年記念リサイタルを好演、11月には、ロン・ティボー国際コンクールのヴァイオリン部門の審査員として招かれた。2012年、日パキスタン国交樹立60周年記念演奏会に出演。2015年にはデビュー25周年を迎え、2015-2016年の2年間で5回の記念リサイタルのほか、全国各地で公演。現在、昭和音楽大学客員教授。